いわて未来づくり機構

ワークショップ

いわて三陸 復興のかけ橋

～新しき明日へ向かって～

2011年12月18日(日) 11:00～

会場 岩手県立大学宮古短期大学部

参加者募集
（参加費無料）

講師 平田 オリザ 氏

東日本大震災津波から９カ月が経過し、国内外、県内外から多くの皆様からの支援を得ながら懸命に復旧・復興に向けた取組みが進められています。この動きをさらに大きく広げていくには、支援を受ける側も支援を実りあるものとしていく工夫が必要になります。

本ワークショップでは、「自立性を回復する、自ら考え判断する、地域社会のつながりを養う」をキーワードにして、講演とワークショップを通じて「どのようにして支援を実りあるものとするか」を再確認し、また、真の復興につながる素材も発見していきたいと考えています。

第1回ワークショップ

日　　時　2011 年 12 月 18 日(日)11:00～

会　　場　岩手県立大学　宮古短期大学部

プログラム　主催者挨拶　岩手県立大学　理事長　相澤　徹

講演　■「いわて三陸　復興のかけ橋　～新しき明日へ向かって～(仮)」(20 分)

岩手県知事　達増　拓也

■「新しい広場を作る」(60 分)

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授　平田　オリザ　氏

講演定員
200 名

ワークショップ(13:00～16:00)「イメージを共有するために」

※　現在、地域づくり・復興に携わっている方、携わって見たい方大歓迎

ワークショップ
定員 30 名
程度

第2回ワークショップ

日　時　2012 年 2 月中旬(予定)

会　場　沿岸南部で調整中

※平田オリザ氏による講演・ワークショップを予定しています。

お問合せ　いわて未来づくり機構・公募型復興企画推進作業部会事務局(岩手県立大学地域連携室内)
〒020-0173　岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巣子 152-89
電話　019-694-3330　ファックス　019-694-3331
メール　workshop@iwatemirai.com　URL　http://iwatemirai.com/fukkou/

<主催>いわて未来づくり機構、岩手県立大学、（財）さんりく基金
<後援>岩手県、岩手大学、岩手県商工会議所連合会、（社）岩手経済同友会（依頼中）

■ 申し込み方法　郵送、ファックス、メールまたはホームページからお申込みください。

郵　　送　〒020-0173　岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巣子 152-89 岩手県立大学地域連携室内
いわて未来づくり機構・公募型復興企画推進作業部会事務局

ファックス　019-694-3331

メ　ー　ル　workshop@iwatemirai.com

ホームページ　http://www.iwatemirai.com/workshop/

※　メールの場合は申込書の内容を記入してください。

■ 申し込み締め切り

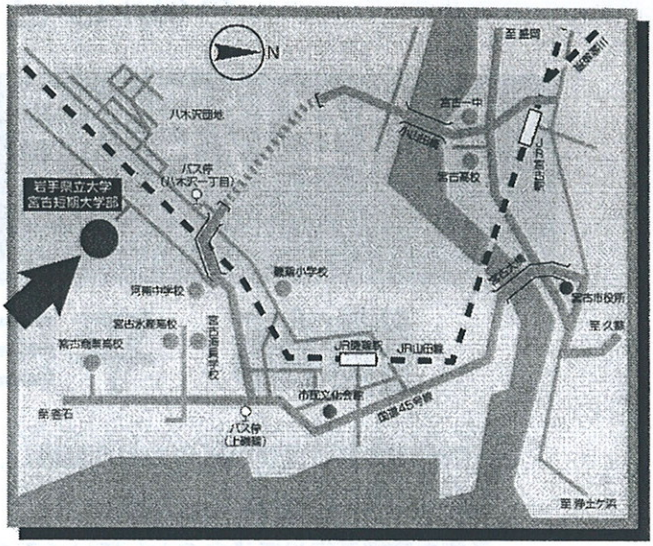
平成 23 年 12 月 14 日（水）

※　講演、ワークショップとも定員を超過した場合には、参加者の調整をさせていただきますのでご了承ください。
　定員を超過した際の連絡は 12 月 14 日（水）までに行います。

■ 会場へのアクセス

岩手県立大学宮古短期大学部
住所　宮古市河南 1－5－1
電話　0193－64－2230

アクセスマップ



講師　平田　オリザ　氏　プロフィール

1962 年東京生まれ。劇作家・演出家、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授、四国学院大学客員教授・学長特別補佐、劇団「青年団」主宰、こまばアゴラ劇場芸術監督、（公財）舞台芸術財団演劇人会議理事長（財）地域創造理事、三省堂小学校国語教科書編集委員、文部科学省コミュニケーション教育推進会議委員（座長）ほか。1995 年『東京ノート』で第 39 回岸田國士戯曲賞受賞。2003 年『その河をこえて、五月』で第 2 回朝日舞台芸術賞グランプリ受賞。フランスを中心に世界各国で作品が上演・出版されている。2002 年以降、国語教科書にも採用された平田のワークショップの方法論に基づき、年間 30 万人以上の子供たちが教室で演劇を創作している。

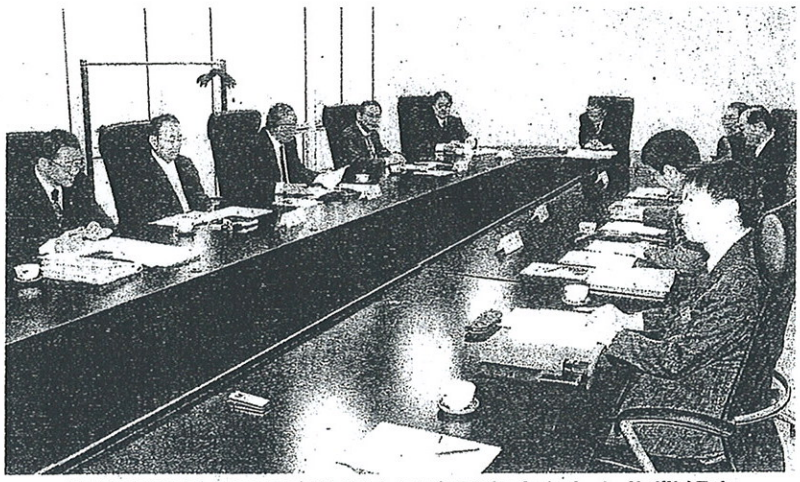
講演・ワークショップ参加申込書

お名前	ご所属 （お住まい市町村名）	参加希望
	（　　）	講　演・ワークショップ
	（　　）	講　演・ワークショップ
	（　　）	講　演・ワークショップ
代表者連絡先	（電話）	
	（メールアドレス）	

ニーズ型 企画提案型 アイデアを公募

いわて未来づくり機構・作業部会 復興企画実施へ

豊かな郷土づくりを目指す産学官連携組織「いわて未来づくり機構」は、県内外から広く復興に関する提案を募集し、実現を目指す「いわて公募型復興企画（仮称）」を実施する。被災地からは直面している課題、県内外の民間業者などからは課題を基にしながら未来を見据えた展望などを公募。同機構がコーディネーター役を務め、それぞれ解決に向けたマッチングを行う。12月中旬から募集開始の予定で、広くアイデアを募って復興を推進していく。



公募型復興企画の実施に向け意見を交わした作業部会

同機構では、7月の総会で同企画の実施に向けた作業部会の設置を決め、準備を進めてきた。県内外の有識者7人で構成される作業部会（座長・相澤徹県立大学長）の実質的な初会合は18日に盛岡市内で開かれた。

同企画の進め方などについて協議。この中で、ニーズ型と企画提案型の二つに分けて公募していくこととした。ニーズ型は被災地で直面している課題などを解決することを目指すもの。比較的小規模な支援を想定している。インターネット上に専用の公募サイトを開設し、マッチングを行っていく。

県内の沿岸市町村に住所（主たる事務所）を置く法人や団体、グループ、個人事業者がニーズを登録。これに対して県内外（国内外）の法人や団体などが支援の申し出を行う。支援側からの申し出が先でも可。海外からの支援も想定し、英語、中国語による登録も可能とする。

企画提案型は、支援側から長期的な展望に立った課題解決策を募る。応募のあった提案はサイト上でブラッシュアップ（磨きを掛ける）意見を募る一方、部会でも解決の可能性などについて検討した上で、マッチングの相手を探していく。

委員からは「相手が見つからずに宙ぶらりんになったときの対応が重要。できないならできない理由を明らかにしなければ信頼性を失う」「ちょっとしたアイデアも取り入れていくことが必要」などという意見が寄せられた。

事務局では今回の意見を踏まえてさらに検討を加えた上で、企画の名称も含めて月内に実施方針をまとめる。来月18日にはキックオフイベントとして宮古市でワークショップを開催。これと合わせてホームページを開設し、公募を開始する。

岩手日日（平成 23 年 11 月 19 日付）

（転載許可済）